プログラム

【第1部】 10:00〜12:00

1. 開会式(10:00〜10:20)

主催者挨拶
- 世界錦鯉サミット実行委員会 会長　花角 英世(新潟県知事)

来賓挨拶
- 農林水産大臣　野村 哲郎 様
- 錦鯉文化産業振興議員連盟 会長　浜田 靖一 様(ビデオメッセージ)

2. 基調講演(10:20〜11:00)

「泳ぐ宝石『錦鯉』−その誕生の歴史と魅力について」
- 東京大学東洋文化研究所 教授　菅 豊 様

3. パネルディスカッション(11:00〜11:50)

「錦鯉を通じた経済・文化の交流について」
- モデレーター：内閣府 クールジャパン官民連携プラットフォーム ディレクター　渡邉 賢一 様
- パネリスト　：錦鯉文化産業振興議員連盟 幹事長 衆議院議員　平 将明 様
  フラー株式会社 代表取締役会長　渋谷 修太 様
  一般社団法人全日本錦鯉振興会 理事長　平澤 久司 様

4. サミット宣言(11:50〜12:00)
- 世界錦鯉サミット実行委員会 会長　花角 英世(新潟県知事)

休 憩

【第2部】 13:15〜15:30

1. 各国における錦鯉事情について(13:15〜13:45)
- アメリカ：アンディー・ムー 様　Andrew's Koi International
- オランダ：ロバート・ヤン・ヴァン・デン・エンデン 様　Ornafish CEO
- インドネシア：スギヤート・ブディオノ 様　APKI(インドネシア錦鯉愛好家協会)事務局長
- タイ：バヴォルサク・スパトン 様　Koimart Farm Thailand CEO
- イギリス：アンドリュー・ジョン・チャッテン 様　SELECTIVE KOI SALES CEO

2. 品種の基準と錦鯉証明システムについて(13:45〜14:15)
- 一般社団法人全日本錦鯉振興会 副理事長　吉田 俊一 様

休憩(14:15〜14:25)

3. 品評会・審査員基準とオンライン品評会システムについて(14:25〜15:15)
- 一般社団法人全日本錦鯉振興会 新潟地区長　伊佐 光徳 様
- 三信トレーディング株式会社 代表取締役　範 軍 様

4. クロージングリマーク(15:15〜15:30)
- 新潟県農林水産部 水産課 課長　米山 洋一
- 世界錦鯉サミット実行委員会 委員　平澤 久司(一般社団法人全日本錦鯉振興会理事長)

WORLD NISHIKIGOI SUMMIT

錦鯉の原点から、世界へ。

NIPPON,
NIIGATA,
NISHIKIGOI.

世界錦鯉サミット

令和4年 11月6日(日)(10:00〜15:30)　会場 朱鷺メッセ 国際会議場(マリンホール)
〒950-0078 新潟県新潟市中央区万代島6-1

同時開催
クールジャパンEXPO in NIIGATA

■主催：世界錦鯉サミット実行委員会 【構成団体】新潟県、長岡市、小千谷市、一般社団法人全日本錦鯉振興会
■後援：内閣府知的財産戦略推進事務局、外務省、農林水産省、経済産業省、日本貿易振興機構(ジェトロ)、一般社団法人新潟県錦鯉協議会、一般社団法人全日本愛鱗会、日本観賞魚振興事業協同組合

ご 挨 拶

本県発祥の「錦鯉」は200年以上の長い歴史を有し、世界60以上の国や地域で流通し愛されている、わが国を代表する貴重な魚です。

このような歴史と世界的な広がりを持つ錦鯉を、発祥の地である本県から世界に向けて発信することは大きな意義があるものと考えております。

「泳ぐ宝石」、「平和の象徴」と呼ばれる錦鯉の魅力や誕生の歴史、錦鯉を通じた経済・文化の交流について共通認識を深めていただくとともに、各国における錦鯉の愛好や流通の状況について報告いただき、世界の錦鯉文化の広がりや今後の可能性について共有してまいります。

今回のサミットを通じて、錦鯉産業の更なる発展と健全な錦鯉文化の定着・拡大に加え、錦鯉を通じた経済・文化の国際交流の更なる促進につなげてまいりたいと考えております。

結びに、サミット開催にあたり、格別のご支援、ご協力をいただきましたすべての関係者の皆様に深く感謝申し上げます。

世界錦鯉サミット実行委員会 会長
新潟県知事　花角　英世

基調講演　「泳ぐ宝石『錦鯉』―その誕生の歴史と魅力について」

「生きた宝石」、「泳ぐ芸術品」とも呼ばれる錦鯉は、新潟県長岡市と小千谷市にまたがる、
二十村郷（にじゅうむらごう）と呼ばれる山間部で飼育されていた食用鯉を起源に生み出されました。

それ以来、長い歳月をかけて品種改良を繰り返すことで、いまの姿形が作られてきました。

更に、それは世界中に広がることによって、グローバルな鑑賞魚文化として発展しました。

こうした錦鯉誕生の歴史と、錦鯉が今日、日本の美を象徴するものとして日本人に愛され、

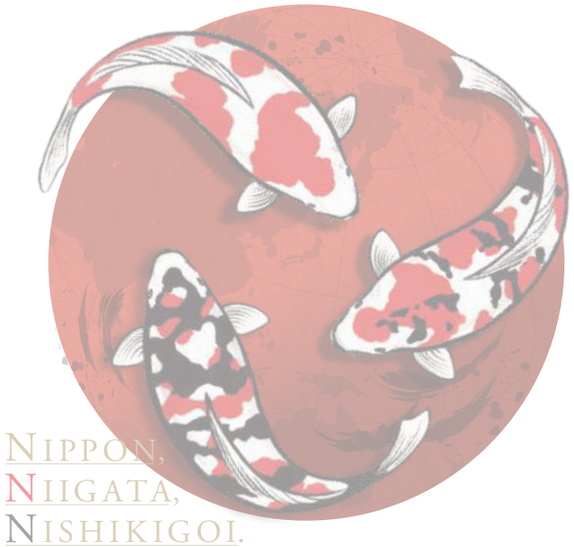
更には海外の多くの人々に愛される「世界の鑑賞魚」にまでなったその魅力について紹介します。

▶講師

東京大学東洋文化研究所 教授（民俗学）

菅　豊　様

1963年長崎県生まれ。
筑波大学大学院博士課程歴史・人類学研究科を経て、1998年博士（文学）号取得。
国立歴史民俗博物館民俗研究部助手、北海道大学助教授を歴任。
2007年より東京大学東洋文化研究所教授に就任し現在に至る。
日本と中国をフィールドに、民俗学を研究。
研究の場を「野」、「現場」に求め、新潟県で生み出された鑑賞魚・錦鯉の文化史的研究を長年行っている。
2017年、「雪の恵みを活かした稲作・養鯉システム」の日本農業遺産第1号認定（同年3月14日認定）に向け、申請者である「長岡・小千谷『錦鯉発祥の地』活性化推進協議会（事務局：長岡市、小千谷市）」に協力。
同年、錦鯉の「新潟県の鑑賞魚」指定（同年5月5日指定）に当たり、選考委員会となる「錦鯉検討委員会」の座長に就任。
小千谷闘牛でも勢子として活動しており、2022年には小千谷闘牛振興協議会の会長に就任。著書多数。



世界錦鯉サミット
World Nishikigoi Summit

パネルディスカッション　「錦鯉を通じた経済・文化の交流について」

▶モデレーター

内閣府 クールジャパン官民連携プラットフォーム ディレクター

渡邉　賢一　様

1971年、鯉の街 栃木県栃木市生まれ。
学習院大学 経済学部、カリフォルニア大学サンディエゴ校、ワシントン大学ビジネススクールBUSIP修了。
KDDI、朝日新聞社、内閣官房地域活性化統合事務局に勤務後、2010年に独立。「社会課題の解決」を目的としたソーシャル・プロデュース法人（株）XPJP 代表取締役 価値デザイナーとしてクールジャパン戦略、地域デザイン、ツーリズム、食文化、次世代育成等の領域を専門に官民連携型プロジェクトを展開。
2020年に宇宙事業に進出し（社）Space SAGA 代表理事 地球創生ディレクターに就任。アイランダーサミット石垣 総合プロデューサー、江戸グリーンエコノミー 総合プロデューサー。伊勢神宮「Feel Jingu」プロデューサー。国税庁 日本酒ブランド化推進事業アドバイザリーボードメンバー、慶應義塾大学大学院SDM研究所 研究員、京都芸術大学 客員教授、東北芸術工科大学 客員教授、総合地球環境学研究所共同研究員、辻調理師専門学校 講師。調理師免許。

▶パネリスト

錦鯉文化産業振興議員連盟 幹事長　衆議院議員

平　将明　様

1967年、東京都生まれ。
早稲田大学法学部卒、元・大田青果市場仲卸三代目、元・東京青年会議所理事長。
2005年、43倍の公募競争を経て自民党公認候補となり、衆議院議員総選挙に初出馬・初当選。
2012年、経済産業大臣政務官に就任し、ミラサポwww.mirasapo.jp 開設などユーザー目線の改革を推進。
2014年、内閣府副大臣に就任し、目玉政策「地方創生」「国家戦略特区」「クールジャパン」等に取り組む。
2019年、二度目の内閣府副大臣就任時に、「防災×テクノロジー（IT）」など、政策の新機軸を打ち出す。
2022年11月現在、衆議院科学技術・イノベーション推進特別委員会筆頭理事、自民党情報調査局長、自民党ネットメディア局長、自民党web3プロジェクトチーム座長、自民党東京都連政調会長など。

フラー株式会社 代表取締役会長

渋谷　修太　様

1988年、新潟県生まれ。クールジャパンEXPO in NIIGATA 実行委員会 会長。
国立長岡工業高等専門学校卒業後、筑波大学理工学群社会工学類へ編入学。
グリー株式会社を経て、2011年11月にフラー株式会社を創業、代表取締役に就任。
2016年、世界有数の経済誌であるForbesにより30歳未満の重要人物「30アンダー30」に選出。
2020年6月、故郷の新潟へUターン移住。同年9月、新潟ベンチャー協会代表理事に選任。
2020年10月、長岡高専客員教授に就任。
2021年12月、EYアントレプレナー・オブ・ザ・イヤー2021ジャパン受賞。
ユメは世界一ヒトを惹きつける会社を創ること。著書に『友達経営』。

一般社団法人全日本錦鯉振興会　理事長

平澤　久司　様

1967年、新潟県小千谷市生まれ。丸堂養鯉場社長。
2006年、全日本錦鯉振興会新潟地区長理事に就任。
2012年、副理事長に就任。2018年、理事長に就任。
2022年5月、一般社団法人全日本錦鯉振興会に名称変更、理事長として現在に至る。
これまで、国内外の錦鯉愛好家団体に講師として招かれ、品評会における審査技術の普及に貢献。
世界各国で開催されている多数の品評会に、審査員としても参加。
品評会等を通じ、日本の強みを最大限に活かすことのできる錦鯉をクールジャパンの主要コンテンツとして諸外国へ情報発信する活動を行っている。